

『西田哲学会年報』投稿規程

西田哲学会編集委員会

二〇一九(令和元)年六月三〇日改訂

- 一 研究論文を『西田哲学会年報』に投稿する者は、西田哲学会のB会員もしくはC会員であること。ただし、掲載希望年度までの会費を納入済みの会員にかぎる。
- 二 『西田哲学会年報』に投稿する論文は、その内容に西田との関係について言及する部分を必ず含むものとする。
- 三 研究論文を『西田哲学会年報』に投稿する者は、同誌に掲載された論文がCINiiとJ-STAGEに登録され、公刊一年後にインターネットで公開することを了解の上で投稿する。
- 四 研究論文の使用言語は、日本語もしくは英語とする。
- 五 日本語で作成された投稿論文は、参考文献・注および図版や表を含めて、一六〇〇〇字以内の分量に収めることとする。英語で作成された投稿論文は、注および図版や表を含めて、七〇〇〇語以内の分量に収めることとする。
- 六 日本語で作成された投稿論文には欧文要旨(ネイティブチェックを施した二〇〇語程度のもの)を、英語で作成された投稿論文には和文要旨(ネイティブチェックを施した二〇〇字程度のもの)を、それぞれ添える。
- 七 投稿論文の採否は、複数の査読者による査読の結果を踏まえ、編集委員会において決定する。
- 八 特殊製版(図表、図版、写真など)の費用は投稿者が負担する。
- 九 『西田哲学会年報』に掲載されたすべてのものの複製権ならびに公衆送信権は、本学会に委託されたものとする。ただしこれは執筆者本人による複製権ならびに公衆送信権の行使を妨げるものではない。
- 一〇 投稿論文の提出締切は一〇月末日とする。原稿は電子データを、編集委員長と学会事務局の両方に添付ファイルで送付する。
- 一一 投稿論文の作成にあたっては本学会ウェブサイト(<http://nishida-philosophy.org/>)に掲載されている「執筆要項」に従うこと。

『西田哲学会年報』執筆要項

西田哲学会編集委員会

二〇一九(令和元)年六月三〇日改訂

一 原稿の体裁

和文の場合、原稿は縦書き。用紙はA4横置き。

欧文の場合、原稿は横書き。用紙はA4縦置き。

連絡先等…原稿の末尾に執筆者氏名(ふりがな付)、掲載時の肩書き(執筆者紹介欄に記載されるもの)、住所、電話番号、メールアドレスを明記する。下記「七 提出の方法」も参照のこと。

特殊文字…ワープロの機能の制約上、印刷できない文字種を使用する場合は、プリンアウトした原稿に朱書きでその文字を記入する。

図版の使用

図版は原則として、雑誌本体二頁(四段)相当分まで認める。制限内におさまるように執筆者の方で大きさ等を指定すること。

通し番号、表題をつけ、出典がある場合は明記する。

特殊製版などに必要な費用は執筆者が負担する。

二 注

注には算用数字で通し番号を付し、本文の後に一括する。参考文献一覧を付す場合は、注の前に配置する。略号がある場合は、本文、参考文献一覧、略号(凡例)、注の順とする。

三 文章の形式

1 読みやすい文体の使用

不必要に漢字を多用することなどは避け、できるだけ読みやすい文体を心がける。

2 数表記

漢数字で年号や頁数を表示する場合は、「十」「百」「千」「万」などの文字を用いない。それ以外の漢数字についてはこの限りではない。

× 千九百五十六年 三百五十八頁

○ 一九五六年 三五八頁

※二百万年・十月二十五日・二十世紀・第二十五回大会などは可。

3 原語の挿入

本文や注の、引用文以外の箇所において、原語を添える必要が生じた場合、括弧に入れて原語を添える。

例 フィヒテはこれを知的直観(intellektuelle Anschauung)と云ふ……

4 括弧

文末に閉じ括弧がくる場合には、句点(。)は閉じ括弧の外におく。

× 「宗教とは神と人との関係である。」

○ 「宗教とは神と人との関係である」。

5 ダツシュ(――)の使用

挿入や、書名の副題などを示すためにダツシュを使用する場合には、全角ダツシュを二つ続ける。

例 虚偽――それは、積極的ではないにしても――、

『西田幾多郎――同時代の記録』

6 引用省略 中間を略するとき(「中略」)、または「……」で省略箇所を明示する。

四 文献の引用例

1 邦語文献

書名・定期刊行物名は『』で、論文名は「」でかこむ。

A 単行本――著者名、題名、発行所、発行年、引用頁数。

例 西田幾多郎『善の研究』、『西田幾多郎全集』第一巻、岩波書店、二〇〇三年、八二―八三頁。

B 論文――筆者名、題名、定期刊行物名、巻号数、発行年(編書の場合は編者名、発行所、発行年) 引用頁数。

例 秋富克哉「作るということ――」創造的「純粹経験からの展開」、『理想』第六八二号、二〇〇四年、一七頁。

上田閑照「逆対応と平常底――西田哲学の「宗教」理解について」、『西田哲学――没後五〇年記念論文集』、上田閑照編、創文社、一九九四年、三八―一頁。

2 外国語文献

書名、定期刊行物名はイタリックにする。

A 単行本——著者名、題名、発行都市、発行所、発行年、引用頁数。

例 Heidegger, Martin. *Grundprobleme der Phänomenologie*, Gesamtausgabe, Bd.58, Frankfurt a. M. 2010, S. 27.

Buber, Martin. *I and Thou*, transl. Walter Kaufmann. New York: Charles Scribner's Sons, 1970, pp. 42-74.

B 論文——執筆者名、題名、定期刊行物、巻号数、発行年（編書の場合は、題名、編者名、発行都市、発行所、発行年）引用頁数。

例 Kopf, Gereon. "The Self-Identity of the Absolute Contradictory What? —— Reflections on how to Teach the Philosophy of Nishida Kitarō." *Teaching Texts and Contexts: The Art of Infusing Asian Philosophies and Religions*. Eds.: David Jones, Ellen Klein. Albany: SUNY Press, 2010. pp.129—148.
Hase, Shoto. "The Problem of the Other in Self-Awareness." *Zen Buddhism Today* 15, 1998, pp. 119-138.

3 略号を使用して引用例を短縮する場合は、略号について説明する凡例を添える。

五 レジюме

和文論文には必ず、欧文（英語・ドイツ語・フランス語のいずれか。ただし、電子公開サイトの仕様や検索の便から、英語の使用を推奨）の論文題名と、二〇〇語程度の欧文レジюме（サマリー）を添付する。

英語論文には、日本語の論文題名と、二〇〇字程度の和文レジюмеを添付する。

六 論文のネイティブチェック

論文は必ず、その使用言語を母国語とする研究者（本人を含む）によって、文法的な誤りや不自然な表現などを修正してもらった上で、投稿する。

七 提出の方法

応募原稿は電子データを、一〇月末日までに編集委員長と学会事務局の両方に添付ファイルで送付すること。投稿の際には、下記の事項も原稿に付記する。

(1) 氏名（欧文氏名も）

(2) 所属（〇〇大学文学部教授、〇〇大学大学院文学研究科大学院生などのように、詳細に記す）

(3) 論文名（和文題名と欧文題名の両方）

(4) 論文に関するキーワード(短文のキーセンテンスも可) 数語

(5) 連絡先

- ・ 郵便物の送付先(自宅住所あるいは勤務先住所)
- ・ 電話やFAXによる連絡先(自宅あるいは勤務先)
- ・ 電子メールアドレス

八 審査

審査・選考は、編集委員会で行う。審査の際、査読者を編集委員会外の者に依頼する場合がある。また、審査の過程で問題点を応募者に指摘し、書き直しの要求をする場合がある。

九 校正

執筆者による校正は再校までとする。ただし、誤植などの必要最小限の訂正しか認めない(大幅な訂正があったときは採用を取り消す場合がある)。また、編集の都合上、執筆要項に照らして、編集委員会の責任において原稿に手を加えることがある。

以上